

# 蕪 工 ニュース

県立蕪崎工業高等学校 総務部  
第222号 2022.11.24

甘利山強歩大会  
ロボコン山梨出場  
レスリング部の活躍  
高校芸術文化祭開催  
献血に協力

## 甘利山強歩大会が開催

今年度の強歩大会は、昨年と同様に様々な感染対策を講じ無事に実施することができました。大会当日は前日の冷え込みも一変し、天候にも恵まれ気持ちよく走ることができました。男子の優勝は竹内幸穂君（2年）、準優勝は高槻春杜君（2年）、3位石原蓮君（2年）、4位岡山瑞希君（2年）、5位向井蓮之助君（1年）と1, 2年生が素晴らしい頑張りを見せてくれました。女子の優勝は小清水真美さん（3年）、準優勝は中田明里さん（3年）、3位保坂彩姫さん（3年）、4位北原りのんさん（3年）、5位中村友唯さん（1年）でした。女子は3年生が頑張り、下級生に良い手本をみせてくれました。優勝の二人は昨年準優勝と悔し涙を飲んだ二人ですが、今年は優勝し清々しい顔をしていました。男子の竹内君は「来年も優勝する！」と意気込んでいました。生徒の皆さんが頑張っている姿はとてもしっかり見えました。また来年もその姿が見られるように期待しています。

## ロボコン山梨に出場

ロボコンやまなし2022が11月12日（土）にアイメッセ山梨にて開催されました。昨年に引き続いての規模を縮小した形でしたが、一般の方も観戦できる状況で開催していただいたことに感謝したいです。本校からは、自由参加に4台、対戦型に3台のロボットを出場させました。結果は自由参加で2位、対戦型で3位に2台という結果となりました。優勝を目指していたので非常に残念ですが、よく健闘してくれました。毎日遅くまで製作・練習してくれました。それぞれ違う動き、機構を用いたロボットを製作できたことは、自慢にしたいです。優勝こそ逃しましたが、参加後、「楽しかった。」という言葉を受けて嬉しく思いました。「良いもの」を作るには時間がかかることを身を持って学べたいい機会になったと思います。来年は優勝します！

## レスリング部新人戦で優勝

10月29日に農林高校で行われた新人大会に出場しました。3年生が引退し、1, 2年生主体の新チームでの初めての大会でした。結果は学校対抗戦ではリーグ戦を全勝での優勝、個人対抗戦は51kg級で1-6の横山桔平、55kg級で2-4の高橋柊生、60kg級で2-1の中村真翔、65kg級で2-4の鈴木飛来、71kg級で2-2の北井涼都、92kg級で2-4の甲斐武蔵が優勝し、全8階級中6階級で優勝することが出来ました。また、優勝できなかった部員も全員が入賞したので、2月に栃木県で行われる関東選抜大会には学校対抗戦と個人対抗戦には11人全員が出場権を得ることが出来ました。次の関東選抜大会そして関東を勝ち抜いた後は全国選抜大会が待ち受けているので、そこへ向けてより一層練習に励んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



が待ち受けているので、そこへ向けてより一層練習に励んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

## 高校芸術文化祭開催で太鼓部が文化祭賞

私たち太鼓部は11月12日(土)、郷土芸能部門へ参加してまいりました。そして見事、最優秀賞である芸術文化祭賞を受賞いたしました！！今年8月に出場予定だった関東大会を感染症対策により辞退したため、部員たちはその無念を晴らすべく必死に練習に打ち込んでいたようです。練習では、一人一人の体の動きや顔の表情など細かい部分まで揃えることが大変でした。チームで打つ和太鼓は揃っていればいるほど魅了されるものですので、観客や審査員を圧倒させる魅せ方を意識しました。また、技術はもちろんですが、例年「ほどよい緊張感と心の余裕」を心がけております。創部22年目を迎えた太鼓部ですが、今年も練習中にピリッとした緊張感を漂わせる一方、普段の生活では学年関係なく戯れている所が見られました。そういった部活内の居心地の良さが「心の余裕」に繋がり、その仲の良さが全員で息を合わせるチームワークへと変わり、本番の演奏に現れたのだと思います。結果発表の後にはたくさんの笑顔や涙が見られました。大変な練習を乗り越えた部員にとって最高のご褒美になったかと思えます。この結果により、来年の夏に鹿児島県で行われる全国総文祭への出場も決定しました。応援して下さった皆様には心から感謝しております。現状に満足することなく精進してまいりますので、ご支援よろしくお願いたします。



## 今年も献血に協力

今年もたくさんの2・3年生に協力してもらい、献血事業が無事終了しました！今回は、「なぜ献血に協力しようと思ったか」について、多くの参加生徒に話を聞いてみました。『授業を休める＋色々もらえる（そして褒めてもらえる）＋人の命も助けられる⇒自分にも誰かにもメリットがある。つまりWIN-WIN！』という声が一番多く聞かれました。



また、『献血というものがどんなものか知りたかったから』という声も同様に多く寄せられました。様々な思惑(?)がありつつも、その根底には「誰かの役に立ちたい」という想いが必ずある――。担当者としては嬉しい限りです！

赤十字血液センターのスタッフさんによると、「今の時期は寒さ、コロナの感染拡大の影響で採血量が大幅に下がっている」とのこと。そんな中、3年連続100名超の参加者を誇る本校の献血事業に「毎年非常に期待しています」と力強く語っておられました。また、今年度は120名を超える申し込みがあった上、400ml献血への協力が多く、予想以上の採血量だったと喜んでいらっしゃいました。

さて、献血を躊躇する人の理由の1つが「採血(注射)が怖い・痛そう」ということだと思います。痛みの感じ方には個人差がありますが、「採血前は不安だったが、思ったよりも痛くなかった」「機会があればまたやりたい」という声が圧倒的に多かったこともここに記しておきます！

来年度も、韮工生のYoung Blood(英語で『若い血』＝血気盛んな若者たち、という意味にもなる)のご協力に期待しています！「献血100人超え」を本校の新たな伝統にしませんか？

URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail [nirasakik-k@kai.ed.jp](mailto:nirasakik-k@kai.ed.jp)